

# 県議会決議をしっかりと受け止め検討し直せ

## 本日 教育長に署名提出9,061人分 合計58,905人分

本日(12/14)、「県立高校の統廃合を考える会」と「ゆきとどいた教育をすすめる会」は、教育長に対して、「統廃合計画案を白紙に、35人以下学級を」の署名8,105人分、「信楽高校を分校にしないで」の署名を956人分提出しました。署名の提出には、高教組4人、全教2人、ゆきとどいた教育をすすめる会1人、母親連絡会1人が参加し、教育長と20分間話し合いました。各団体から次の点が出されました。

「少なくとも1年以上の時間をかけて更に慎重な検討を」とする県議会決議を、しっかりと受け止めて統廃合計画原案を一旦白紙に戻して欲しい。

滋賀は早くから35人学級をスタートしたのに、止まってしまっている。何とかしていただきたい。信楽でも分校化反対の大きな運動が起こっている。

70年代に、京都の嵯峨府政が「15の春は泣かせない」と言った。全入などの運動は立場を超えてのものだった。今度の統廃合もそれと同じ性質のものだ。現場の意見を聞いて欲しい。



信楽は、分校化ではなく30人学級に

高校も多くの県で必要に応じて35人学級を入れている。滋賀県も必要度の高いところから入れよ。信楽は分校化ではなく、30人学級にして3クラスで存続させてほしい。

小中の35人学級「そうすべきだと思う」

教育長は、小中の35人学級については「そうすべきだと思う」と積極的な回答を示しました。高校については「とてもそこまで」と否定的でした。

「小さな学校ではダメだ」「だったら県民討論を」  
統廃合については「私はやっぱり小さな学校ばかりではダメだと思う。皆さんも、統廃合反対の一辺倒ではなく、一度検討していただきたい」と、大規模・切磋琢磨論を繰り返しました。私たちは「教育長の意見に根拠があるのかどうか、その意見を含めて、知事や教育長が参加して県民討論会をしませんか」と提起しました。教育長は「県民討論と言っても...」と消極的。

これだけ県と県民・地域住民の思いがかけ離れているとき、知事や教育長に自信があるのなら「県民の前で開かれた討論会」を開くべきです。さもなくば、統廃合案は白紙に戻して検討し直すべきです。

今年度に提出した署名	58,905人分
「高校統廃合ではなく35人学級に」	33,094人分
「彦根西高と彦根翔陽の統合撤回を」	15,155人分
「信楽高校を分校にしないで」	8,456人分
「長浜北高の存続を」(PTAと生徒会)	2,200人分
昨年度に提出した署名	52,140人分

今回の署名提出は9,061人分、今年度に入ってから署名の累計は58,905人分です。昨年度の署名52,140人分を合わせると延べで111,045人分になります。まだ手元にたくさんの署名があると思います。後ほど提出しますので高教組の本部まで届けて下さい。

### ストップ高校統廃合速報 2011年度第31号 2011/12/14 県立高校の統廃合を考える会

077-522-4965 FAX 077-522-4978

(掲示・増し刷り・回覧などで全教職員にお知らせください)